

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成30年2月発行 NO-64

地域リハ支援センター

第14回かながわりハビリテーション・ケアフォーラム

災害とリハビリテーション

～安定した生活に戻るために、被災地から学ぶ～

平成30年2月3日(土)に、横浜情報文化ホールにおいて、第14回かながわりハビリテーション・ケアフォーラムを開催しました。フォーラムは、地域リハビリテーションに係る最新の動向等について、県民や、医療・介護・福祉のリハビリテーション関係者に対して情報提供し、啓発するとともに、多職種連携の必要性・重要性を知っていただくために開催しています。

今回は「災害とリハビリテーション ～安定した生活に戻るために、被災地から学ぶ～」と題して、災害を経験された保健師とリハ専門職の立場から、安定した地域生活に戻るためにどのような活動をしてきたのかお話ししていただきました。

■講演は、お二人の方にお願ひしました。

●宮城県東松島市職員の大内佳子氏 「東日本大震災から学ぶ保健師活動のあり方」

大内氏は東日本大震災をご自身も被災され、その中で被災者への直接支援や、行政の立場として被災地の状況把握などの保健師活動を行ってこられました。

●理学療法士の河添竜志郎氏 「熊本地震でのリハビリテーション専門職の実践と提言」

河添氏は阪神淡路大震災の経験をもとに、自身が運営している介護施設等の熊本地震での取り組みを話されました。

お二方の講演は、被災地の写真も多く、参加者がイメージできる内容であり、被災後の支援は何か重要であるかを説いていただきました。



■シンポジウム

●理学療法士の下田栄次氏

「災害リハビリテーションにおける支援体制づくり」

下田氏は神奈川県理学療法士会災害対策委員会から熊本地震に派遣され、その支援活動を報告していただきました。その後大内氏、河添氏のお二人も加わりディスカッションを行いました。フロアからの質問もあり、参加者アンケートでは参考になった、また平時からの地域での連携が大切だと思ったなどの意見が多かったです。

(泉 忠彦)

KRRCと共同開催!

みんなで義手の操作体験～

義肢装具セミナー（義手編）開催!



2月17日土曜日に、神奈川リハビリテーション病院にて「義肢装具セミナー（義手編）」を開催しました。今回は、29年4月より神奈川リハビリテーション病院に開設したかながりハビリロボットクリニック（KRRC）と共催で行いました。講師に全国的に義手の分野で先駆的に活動されているお二人をお招きしました。

午前に、KRRCの担当医である神奈川リハビリテーション病院のリハビリテーション科横山医師より、かながりハビリロボットクリ

ニック（KRRC）の取り組みについて紹介し、オットーボック株式会社のプロダクトスペシャリストの八幡さんより、筋電義手の歴史や機能の詳細、支給の種類などについてお話がありました。午後は兵庫県立総合リハビリテーションセンターの作業療法士の柴田さんより、上肢切断と



義手の基礎についてお話があり、

実際に能動義手と筋電義手の操作体験を行いました。その後、作業療法の支援と作業療法士の思考過程について、実際の支援の動画や当事者の義手でのバイオリン演奏の動画、社会復帰されている動画などを交えつつお話がありました。一日を通して非常に実践的な内容で、今後の臨床での考え方や見るべきポイントなどを学ぶことが出来ました。

（一木愛子）



（講師）オットーボック株式会社 プロダクトスペシャリスト 八幡済彦氏

兵庫県立総合リハビリテーションセンター 作業療法士 柴田八衣子氏

（実技アシスタント）神奈川リハ病院 リハビリテーション工学科 丸田耕平 長田貴史

29年度全研修終了!

今年度は25の研修を開催し、講師の皆様のご協力によりいずれの研修も好評な研修となりました。ありがとうございました。来年度も新たな研修を開催する予定です。多くの方の参加をお待ちしています。詳しい内容につきましては、ホームページやフェイスブックなどでお知らせします。お楽しみに!

（一木愛子）

言葉に表しにくい、身体のこと

50代の知的障害の女性 Aさんは膝が痛くて歩くことがつらい状況でした。膝が伸びず踵を浮かせて歩き、体重をかけにくい様子が見られました。膝を曲げた状態で立つのは負担が大きく、痛みの原因になります。脳性麻痺の影響で自分では膝の曲げ伸ばしが難しいため、一緒にボールを転がしながら膝の曲げ伸ばしを繰り返しました。徐々に膝の動きが良くなり、踵を浮かせることなく歩くようになりました。通所施設でこの運動を続けることで、歩くことを嫌がらなくなりました。



座位姿勢の崩れについて相談も多くありますが、姿勢が崩れる原因は様々です。50代の知的障害の女性 Bさんは食事中に体が傾き、困っていました。入所施設に訪問して身体機能を評価すると、軽度の側彎があり自分では修正できずに倒れてしまっていました。お尻の下に手のひらを入れると傾きが減り姿勢が安定することが分かりました。傾く側のお尻の下にタオルを折って敷き少し高くして食事をしたところ、食事中の姿勢の崩れが改善できただけでなく、食事の量も増えました。

50代の高次脳機能障害の左片麻痺の男性 Cさんは、滑り座りとなり体は右へ左へ傾いて姿勢が崩れてしまっていました。この方はトイレの時間以外ほぼ1日中車椅子に座って過ごしていました。お尻や体が痛くなると、お尻を浮かせたり、体を傾けたりすることで苦痛を和らげようとしていたのですが、姿勢が崩れたまま戻れなかったようです。座クッションを厚いものに変更し、車椅子の背もたれを体に合わせるとともに、日中に横になる時間を作ることで姿勢の崩れは改善しました。

知的障害や高次脳機能障害のある方は自身の体の状態をうまく伝えることができず、本人とともに周囲の方々も困ることが多いようです。リハビリテーション専門相談では動作や身体を一緒に確認する過程を通じて、本人の身体を理解を深めます。言葉には表しにくい身体の悩みを持つ方の理解を深める手がかりをお伝えできるかもしれません。お気軽にご相談ください。

(平田 学)

平成29年度4月～2月リハ専門相談実績(2月15日時点)

4～2月(2/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所
脳性麻痺	22	33	37	8	9
神経・筋疾患	19	41	40	11	7
脳血管障害	24	13	33	3	1
脊髄疾患	11	20	20	6	2
脊髄損傷	9	5	10	2	2
骨関節疾患	5	3	8	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	7	17	15	8	1
知的障害	11	14	16	7	1
内部疾患	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	12	1	10	1	2
合計	120	147	189	46	25

4～2月(2/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	24	9
環境整備	2	3
身体機能評価	9	2
ADL指導	1	0
訓練プログラム指導	1	1
介護指導	6	3
支援内容検討	3	4
医療	0	1
その他	0	2
合計	46	25

平成 29 年度高次脳機能障害セミナー—就労支援編

1月20日(土)に厚木シティプラザにて就労支援編を開催しました。今回の就労支援編は、県央圏域で行い、就労支援機関からは障害者就業・生活支援センター「ぼむ」の安達祐二氏、神奈川県障害者職業センターの吉川氏にご登壇いただきました。プログラムは、職能科より「高次脳機能障害の就労支援」について講演を行い、「高次脳機能障害の地域支援と社会リハ」としてクラブハウスすてっぴななの野々垣睦美氏より講演をしていただきました。午後は、グループワークの事例検討会、就労支援機関等の紹介を行いました。

高次脳機能障害の就労において、医学的な安定、生活リズムの安定、通勤の可否等職業準備性という社会リハの段階が重要になります。医療、障害、介護、就労の各支援者は、専門性をもって支援をしていると思いますが、お互いの職種の理解等を含めた多職種連携が不可欠です。事例検討会においても、多職種で行うことを意識しており、他の職種の視点に触れることがお互いの理解に繋がり、支援力の向上にもなると思います。

(佐藤健太)



平成 29 年度第 2 回神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会



2月6日(火)に川崎市高津区で神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会を開催しました。委員として県内で高次脳機能障害の支援をしている相談支援、通所事業所

、行政の方々にご参加いただきました。県内の支援状況、平成30年度の障害福祉サービスの改定について情報交換を行い、事例検討会も行いました。平成30年度の改定では、自立訓練(機能訓練・生活訓練)の対象者について障害の区別がなくなることから、高次脳機能障害の方が利用する社会資源に広がりがみられる可能性があります。事例検討会では、アルコールの課題があるケースについて検討を行いました。

この連絡会ではあえて支援困難事例を取り上げて意見交換を行う機会としております。

(佐藤健太)

平成 29 年度高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

平成30年2月20日(火)に神奈川近代文学館において平成29年度高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会を開催しました。この会議の目的は、高次脳機能障害に対する専門的な支援を行うとともに、支援拠点機関を中心とした関係機関との地域支援ネットワークの充実を図り、高次脳機能障害者に対して適切な支援が提供される体制を整備することです。委員は当事者団体、政令市支援機関、福祉関係機関、学識経験者、行政担当者です。神奈川県内の支援体制の情報や課題を共有し、今後のより良い支援に向けて意見交換しました。

(佐藤健太)

編集後記：支援センターでは、来年度の研修計画を立てているところです。リハビリに役立つ知識と実技を多くの方にお伝えできればと思っています。4月になりましたら、ホームページに年間予定表を掲載しますので、ぜひご覧ください!! (砂川 久美子)

地域リハ支援センター

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601